



## 赤塚のビオトープはトンボ池

板橋区では、平成9年から毎年1校ずつ学校にビオトープをつくっています。そして、平成12年度に学校ビオトープを作った蓮根第2小学校では、全国学校ビオトープコンクールで日本生態系協会会長賞という立派な賞をもらいました。

しかしビオトープの意味はそれほど知れ渡っているわけではありません。赤塚の自然池ではタナゴやメダカ、クチボソなどがいます。自然に湧いたものではありません、誰かが放したのでしょう。ミシシッピーアカミミガメ、キンギョ、コイ、ザリガニはビオトープの存在基盤をおびやかすものです。さらにエサらしいパンが浮いていたとか！！ また、ザリガニを取りに来る人が増えることによって、池まわりの植物が踏みつけられ、裸地化してきました。

以下は猪鼻さんからの情報です。

2,3日前になります。乗蓮寺裏の池をのぞいたところ、このところの日照りで池の水が大分減少していたのはしかたないが、ザリガニがウヨウヨいたのには驚きました。前から金魚が何匹かいたので、近づいた時のピチャピチャと動く生き物が、まさかザリガニとは思いませんでした。たくさんいるではないですか？まいました。湧き水の経路を通って移動し、どこかで増殖して池にドウッと入ってきたんでしょうかね。今年トンボの羽化もほんの少しでしたよね。ザリガニが原因だったんでしょうかね。目黒自然教育園の萩原さんがおっしゃってたとおり、絶滅は不可能なんですかね。また仕事が増えちゃいました。金魚は何匹かいました。

美術館前のビオトープにも大きな金魚が放たれていました。

以上、ご報告まで(6月11日、猪鼻昭二)

滝川さんから、自然池というのはわかりにくい、トンボ池と呼ぼうという提案があり、みんな賛成しました。板橋区で自然の場所を整備したら、やってくる生き物はトンボとカエル。ト

トンボのすめる環境で訴えていこう、ということになりました。

- ・ 三園小学校の朝礼で、赤塚の自然池を大事にしてね、とお願いしてきました（6月3日）。
- ・ ザリガニは、最小限増やさないようこまめに取ります。お手伝いくださる方は森さんまで。



これじゃあ池の縁は踏み固められて・・・

ザリガニ捕獲数は、5月13日401匹、

6月8日400匹位、6月13日230匹、6月21日40匹（ほかに乗蓮寺下の池のザリガニ6匹キンギョ1匹）、7月8日153匹（真田さんの最新の捕獲網はなかなかのスグレモノですよ）。

- ・ 荒川のヨシを植えました。ヨシはザリガニに負けない位強い植物で、昔、赤塚溜め池にもあった植物です。また、広場側にはオギを植えました（6月13日）。
- ・ 池を見た方から、ザリガニを駆除するアイディアもいただきました。
- ・ 橋の奥は入らないように、という看板を立てます。

いろいろ議論した結果、これまで通り継続して網で取り除くことになりました。トンボがたくさん羽化できる池になるまで、根くらべですね。

写真は徳丸が原公園、5月25日（土）私達が柵を修理している真っ最中の一コマ。ザリガニがいる限り、人が入らないようにするのはむずかしそう。この日、ヤナギの枝をためて生垣風に工夫しました。少しでも立ち入りの障害となるようにと。

## 洗足池の水生植物園

先日大田区に住む息子の家を訪ねた折、近くにある洗足池を散歩しました。洗足池公園は、75000㎡以上もあり、洗足池は39,000㎡もあるそうです。池にはカルガモ、マガモ、サギの種類なども訪れています。

よく見ると、ミシシッピーアカミミガメがいるいる、あちらにも、こちらにも群れになって泳いでいる。

増えすぎたミシシッピーアカミミガメは、小さい魚や水生昆虫だけでなく、水生植物の根まで食べてしまって、公園の管理をしている側は困っているそうです。赤塚自然池のザリガニの

様なものでしょうか。

また、当然いるはずのニホンイシガメが1匹も見られない。私が子供のころ、どこの川、どこの池にでもいた、人の気配がすると、甲羅干ししていたイシガメが、あちこちでチャポン、チャポンと水に飛び込む音を聞いたものだったが、どこにでもいたニホンイシガメは、今では護岸工事、農薬、化学肥料、水田の減少などで住む所を追われた上に、ミシシッピーアカミミガメにも生息地を奪われて、本当に少なくなっているそうです。



どこでも踏圧では困っているんですね。

ニホンイシガメがワシントン条約に登録なんていうことにならなければ良いですね。



また、公園の一角には、水を浅く張った水生植物園があって、かなり広くて赤塚の釣堀池の5~6倍はあるでしょうか。この水生植物園は平成

11年に作られたもので、当初は50種類の植物を植えたそうですが、かなりの種類の植物がたを消したそうです。

## 訃報

会員の植田陽一さんが亡くなりました。

(財)日本ナショナルトラスト協会に勤務され、日本の文化と自然を保全する仕事の傍ら、オフにはボランティアを募集して、巻機山の山道を整備するという巻機山ボランティアズでお忙しいなか、会のホームページを制作・管理していただき、また水と緑の会の運営や、隣町和光



市の酒蔵保全など、いろいろな面で会を支えていただきました。秋の上高地合宿にも参加されました。お酒が強かった。新年会が最後でしたが、このときも体調が悪かったみたいでした。あまりにも早いお別れは悲しく残念です。

水辺の掲示板には、「ガマ、ヨシ、ミソハギ、などの、根を水のなかの土に張ったものと、アサザ、ヒシ、ヒツジグサ、などの浮葉植物があってそれぞれが水を浄化することや、その植物の周りにはたくさんの生き物たちのすみかとなっている」と説明されていた。

植えてある植物はシャガ、セリ、ヘラオモダカ、などでセリは当初区民に摘んでもらう計画だったそうですが、チョウの幼虫のえさとなり、人間の口には入らなかったそうです。水生植物園が出来てからは、かなりトンボやチョウが増えていそうです。

浅い水辺は小さい生き物にとっては、大切だと確信しました。

それにしても大きな池、うらやましいですね（瀬田政江）。



## おしゃべり 赤塚城址付近のこと

赤塚自然池のお掃除、1度は参加したいと思ってますが、土曜は2時まで仕事入っててなかなか参加できません・・・残念無念です。

きれいな川にいるんですね、ヘビトンボ。なんで、赤塚に・・・。

不思議、不思議。そんなお話もみなさんしてみたいのに。

乗蓮寺下のピオトープ(?)ですが、4/28に行った時、クロスジギンヤンマの抜け殻9個と羽化直後1匹(頭?)いました。で、その時は、きんぎょはいませんでした。5/15にはまっかつかのきんぎょさん3匹いました。誰かの好意(?)行為ですよね。

うーん、なんとも。どうしたものでしょう・・・。

5/15、赤塚5丁目、松月院幼稚園の道路をはさんだ反対側、畑の中の梅の木の幹に・・・な、な、なんとオオミズアオが・・・羽化直後のようです。尾羽(?)がまだ少しちぢんで、おりからの風に細い赤い脚で必死に木にしがみついて。

もう、チョーラッキー！やったー！嬉しい！こんな場面に出会えて幸せだー！もう、見とれち

やいましたよ。一人で見るのもったいなくて、誰かに教えたいのだけど、道行く人は怪訝な顔して自転車でビューンと通り過ぎちゃうんだもの。あー、なんだよー、オオミズアオだよ、羽化したての水もしたたるべっぴんさんだよ。まったく、通り過ぎるかね普通。

・・・そりゃそうでしょ、興味・関心のない人にとっては見る価値のないもんですよ。道路に自転車止めてじーっと畑を見てる私はきっと変なおばさん・・・変なおばさんでもいいもん。自然からの素敵なメッセージを受け取れたから。

ことしはね、クロスジ君の羽化にも立ち会えたし、うん、なんかしあわせです。

毎週水曜日、午後4時ごろ城址付近をうろうろしてます。仕事帰りなの。

バッタ広場でオオカマキリの卵のう見つけたり、えごのきの花を見上げてたら、スズメバチとニアミスしたりと、楽しんでます。コムスジも遊んでますよ。

犬の散歩が途絶えると、城址独り占め。ベンチに座ってボケーッとね、緑の景色の中に体が溶けていきます。

今のところ、五感で楽しんでますが、それなりに勉強もしたいと思ってます。

植物、昆虫、ひゃー、たくさんあって大変だ。まあ、きながに。きながに。

ありがとう 今年も会えて ほんとに嬉しいよ。 ちょっと早めの初フライトはクロスジギンヤンマ。きみの羽が伸びきるまで ここにいていいかな・・・。

## 目黒自然教育園で自然を学ぶ

5月11日(土) 会で自然教育園を訪れるのは4回目、私自身は3回目になります。いつも園の役員さんが園内を説明してくださり、その都度新しい何かを得、また発見があります。

今回はいつもの顔ぶれの他に、高島平新聞で今回の学習会の企画を知ったという方を含め、12名が参加しました。

来園途中道に迷った人もいて、開始が遅れましたが、役員さんの自己紹介を受け、また、私達も会の普段活動している内容を説明、今回の学習会の目的を話し、いよいよ園内の散策に。

前日の雨はあがりましたが、空は曇っていたためか、大きな木々の緑は濃く、都会のなかで木々が茂り騒音から隔離された一角でゆったりした気分になりました。

歩き出した途端、そんな空を見上げ、大きなケヤキを指して、「これ何の木？」次は足元の落ちて葉のついたたくさんの小枝を見て「これ何の木？」「ケヤキ！」ここまでは何も考えずに即答。一本の小枝を拾って、「これはどうして落ちてきましたか？」鳥、虫、風、それ

も少しあるかもしれませんが違っていました。

さらに私達の前に小枝を差し出して「この小枝は何年経っていますか?」、1、2、3年、5年そんなことわかる??。説明を受けるとちゃんと成長の跡が見られました。

10人程度の人数が集まり事前に依頼すると、園の研究員の方が園内を歩きながら1時間程度、木のこと、草花や虫のこと、草や葉を使った遊びなどを説明しながら案内して下さいます。個人で訪れて、じっくり園内の植物や虫等を見て歩き、深い緑の中に身を置き、森林浴で心を休めるのもよいと思います。

自然教育園のパンフレットのはじめには、次のように紹介されています。「大都市「東京」の中心部にあって今なお豊かな自然が残る、都市砂漠の中のオアシスともいえる緑地です。園内には、コナラ、ケヤキ、ミズキなどの落葉樹、スダジイ、カシ類、マツ類などの常緑樹で広く覆われているほか、ススキやヨシの草原、あるいは池や小川などがあります」。

維持されている目的が、私達の活動の考え方と通じるところがあり、これからの活動に大いに参考になります。会では機会あるごとに学習会で訪れたいと思います。

ケヤキの答え、皆様も公園に行ってお確かめてください。(大西 優)

自然教育園は、一般の植物園や庭園と違い、自然の移りゆくままという考え方で、できる限り自然の本来の姿に近い状態で維持されています。日曜野外案内(毎週日曜日11時から12時まで)、子供土曜観察会(毎週土曜日11時から12時、大人も可)などは、申し込みしないで参加できます。誘い合って参加するのはいかがでしょうか。

## いたばし水と緑の会のホームページについてお願い

### 管理して下さる方を募集しています

## 荒川河川敷「草地広場」について意見を募集しています

荒川生態園に続く上流側に中規模自然地が整備されました。ひろびろとした水辺と草原の自然地です。となりには陸上競技場がすでに整備されています。陸上競技場の上流側は、荒川将来像計画では「草地広場」に予定されています(面積は約9ヘクタール)。

みどりと公園課ではこの広場の整備について区民の意見を募集しています。

7月31日(必着)郵送またはFAXまたはEメールで。

郵送の場合: 173-8501板橋区役所みどりと公園課公園計画係

FAXの場合: 3579-2547

Eメールの場合: [midori@city.itabashi.tokyo.jp](mailto:midori@city.itabashi.tokyo.jp)

## なぜ生き物を放してはいけないのか(3)

今回は結論のひとつを先回りして書いてみる。ビオトープについてである。前2回の書き物もビオトープに生き物を放さないで、という話を書いてくれと頼まれたものである。こちらもし深く考えてみようと思っていたテーマであるが、その割には書くのは締切ぎりぎり、参考資料も見ずに書いたのでグチャグチャになってしまった。いずれ「なぜブラックバスを放してはいけないのか」という表題でまとめて見ようと思っている。その前にブラックバス釣りにも挑戦しなくてはならない。あー忙しい。

ビオトープとはなんだろう。動物園、植物園とはどう違うのであろうか。ビオトープという言葉は古典ギリシャ語のバイオス(バイオスかもしれない)とトポスから合成された語である。直訳すれば生命あるものがある所といったところであろう。本家本元のドイツではどう定義しているのか私は知らない(調べてない)。

私の理想のビオトープとはどんなものか書いてみよう。作る場所はコチコチのグラウンドやコンクリートに覆われた広場の片隅など、要するに自然のかけらも残されていない場所である。ここの地面を耕し、金があれば水辺も作る、なければむき出しの地面だけで結構。どうしても土が足りなければごく近所のもので、なるべく草の種や動物がまぎれこんでいないもの、土木工事現場などの深い所から出た土があれば最高である。これだけである、貧乏人にはうってつけである。後は待つだけ。やがて雑草が生え、小さな虫が住み着く。雑草のほとんどは外来種、虫はウンカやカスミカメムシの仲間、草の汁を吸う虫である。そのうちこんな虫をねらってアジアイトトンボやシオカラトンボがやって来る。両種とも放浪性の強い超普通種である。ヤマトシジミやイチモンジセセリ、モンシロチョウといった、これまたド普通種の蝶もくる。カブラヤガ、ヨトウガ、ワモンノメイガなど珍種好みの昆虫コレクターがみたら卒倒しそうな普通種が増えれば、スズメやムクドリ、ヒヨドリといった常連の鳥達がやってくる。立派なビオトープの完成であろう。大都会の自然の粋を集めたビオトープの出来上がりである。これは皮肉ではない。生き物の生活にひそむ謎は普通種でも珍種でも同じである。年月とともに移り変わる動植物たちを見続けるおもしろさは格別であろう。なぜこの生き物は大都会に住み着くことが出来るか、探求の興味はつきないであろう。

これと対極のビオトープはどんなものであろうか。作る場所は同じだが、できあがった時は既に完成品である。野生の草花に囲まれた水辺には珍しいイトトンボが飛び、水生植物が豊富な池のなかには野生種のメダカやドジョウが泳ぎ、アマガエルの声も聞こえる。50年前、ここにあった自然がよみがえったのである。二度と会えないと思っていた子供のころの自然がよみがえった。これもまたビオトープである。

もしこのビオトープに遠い土地の動植物、この土地にはいなかった動植物がいたらどうであらうか。まさに動物園、植物園である。遠い地方、異国の珍しい生き物たちを、勉強のため、

見せ物のために集めた動物園、植物園と区別出来なくなってしまう。これはビオトープではない。

私のビオトープ定義の限界は後者、かつての自然をよみがえらすビオトープ、ここまでである。始まりは人間が作るが、以後は原則的には自然にまかせる。手入れは必要最小限にとどめたい。4,50年前にここに生きていた生き物ならば多分自立してくれるだろう。ただし狭い生息地でも耐えられる種でなくてはならない。連れてくる生き物は、なるべく近く、かつては当地とつながっていた場所で集める。そこにはまだ豊富に生息している生き物に限るのは当然である。生物の遺伝子は同じ種でも遠く離れば少しずつ異なってくる。

私の理想、まったく自然にまかせるビオトープでは賛同者は少ないであろう。対極の完成品のビオトープとなにもしない私のビオトープの間のどこかで落ち着くのではないか。

もともとホタルの住んでいない北海道にホタルを放す、ライチョウがいなかった富士山にライチョウを放す、論外の話で、自然破壊以外のなにものでもない。富士山のライチョウの話は確か40年前ぐらい、専門の学者も参加していた。幸いというか、当然というか、数年で失敗し立ち消えになった計画である。その頃は自然の専門家でもこんな意識であった。北海道のホタルの話は割合最近のこと、先はまだ長い。(釣巻岳人)



# 活動のお知らせ

問合せは：瀬田まで（3969）7124

**運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。**

8月運営委員会 8月2日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

9月運営委員会 9月6日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

**会報の印刷・発送は奇数月の15日ですが、連休中なので繰り下げます。お手伝いできる方は応援よろしく**

日時：9月17日(火) 17:30~ 場所：エコポリスセンター

**毎月第4土曜日を定例の活動日とします。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察とゴミ拾い、その後必要な修理等の管理を行います。**

## 赤塚公園夜間昆虫調査

ライトに集まる昆虫を調査します。

日時：7月20日(土) 19:00~ 場所：城址バッタ広場周辺

持ち物：虫除け薬、懐中電灯、飲み物いろいろ 連絡先：釣巻(3961)2875

## 赤塚公園自然観察&クリーンウォークと樹木調査

赤塚公園周辺の自然ウォッチングとゴミ拾いをします。終わったら草原の樹木調査と作業(池の立入禁止看板、倒木の処理など)を手分けしてします。

日時：7月27日(土) 10:00~12:00(もう少しかかりそう)

場所：美術館前集合、持ち物：軍手、ゴミ袋、名札、

内容：城址周辺の観察とゴミ拾い、気がついたところの補修

## 自然池管理ボランティア募集

トンボ池のザリガニ捕獲等(子供を刺激しないため平日に実施します)。

## バッタ観察会(雨天の場合は全体の観察会とします)

日時：8月24日(土) 10:00~12:00 場所：城址バッタ広場

持ち物：帽子、飲み物、あれば図鑑、昆虫網、

**午後はウォークの打ち合わせ、その後に軽く暑気払いをします(赤塚5丁目集会所です)**

## 乗鞍合宿

乗鞍高原初秋の自然観察(乗鞍自然学校)や、昨年ちょっとだけ体験した草原管理の結果を見たりします。申し込み締め切りは8月20日。連絡先：瀬田(3969)7124

日時：9月7日(土) 7:02新宿発~8日(日) 19:56新宿着

## 荒川鳴く虫観察会

日時：9月14日(土) 18:00~ 場所：荒川生物生態園(戸田斎場の前あたり)

持ち物：懐中電灯、好きな飲み物、図鑑など